

「きのさき見て歩き」を開催しました

実施日 2024年12月6日（金）9:20～13:30（天気：雨）

講師 坂田 文一郎氏（城崎文化協会会長）

内容 「内川歳時記めぐり」

【韓国神社】



開講式の後、飯谷の氏神である韓国神社へ行き、講師の解説を聞きました。

韓国神社は当初物部神社と称して、延喜式神社帳に記録された神社でした。祭神の^{まどりのみこと}真鳥命が武烈天皇の勅使として韓国に渡り、その功として「^{からくにのむらじ}韓国連」の姓を賜ったことから韓国神社となり、明治初年の神社調べの際に韓国神社として届出を出したことで韓国神社と呼ばれるようになったそうです。

韓国神社の鳥居は安芸の宮島と同じ形で、柱を4本の控え柱で支える「四脚鳥居」であること、大火により昭和3年に字宮津から現在の地に移転されたことなどを聞きました。

現在の場所に移転する前の神社跡である宮津にも足を運び、歳時記にある大亀の話の場所や元の韓国神社の跡などをめぐりました。

【楽々浦】



楽々浦湾に沿って歩きました。

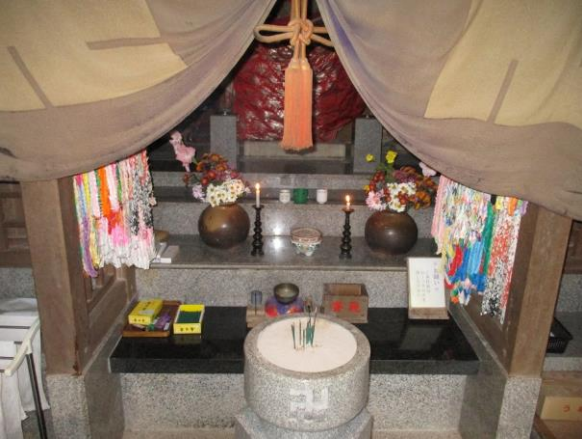
対岸にそびえる二眉城は古代、のろし台としても使われ、円山川の水運状況を円山川沿いの村々に「のろし」で伝える高台であったと伝えられています

また、楽々浦地区では湾沿いの道路拡幅前の地形など、残されている倉の位置を確認し、道路や舟屋の解説を聞きました。

楽々浦交流館をお借りし、三島神社の祭神の名前が地名になったことや「^{たにま}谿間」開発のため^{この}籠神社から遣わされた

^{あまほのあかりのみこと}天火明命について解説を聞きました。

【鼻かけじぞう】



まんが日本昔ばなしにも登場している鼻かけじぞうに行きました。願いを叶えてくれるお地蔵さんとして、地域の人に親しまれています。

【戸島湿地】

ハチゴロウの戸島湿地に行き、職員の方の解説を聞きました。

決まった夫婦が何年も湿地で子育てをしていることや、コウノトリの生態などを話してくださいました。

講師から、地形から見る古代の戸島集落の場所や戸島下流の「カルガ谷」にあった集落の移住、ハチゴロウの戸島湿地辺りの地名がイマヅであるなどの解説がありました。

今回の見て歩きはあいにくの雨でしたが、飯谷、楽々浦地区を参加者と楽しく回ることができました。

韓国神社、三島神社の神様と丹後宮津籠神社との関係や地名、神社の名前の起こり、村の昔と今の比較など現地で色々な解説を聞くことができ、有意義な時間となりました。

城崎庁舎へ戻り 13 時半頃解散しました。